

しよほう 第24号

<目次>

- ◇「減らないお弁当」
前伊勢市教育委員会教育委員 松田 丈輔
- ◇「スクールイノベーション総合推進事業」2年目の成果
明倫小学校編・上野小学校編
- ◇これからの伊勢市のICT教育は
- ◇伊勢市教育研究所 移転の歴史

「減らないお弁当」

前伊勢市教育委員会教育委員 松田 丈輔

昨年、12月24日に教育委員を退任させていただきました。教育長をはじめとする教育委員会事務局の皆様、最前線の教育現場を支える校長をはじめとする先生方、共に職務を担われた委員の皆様方、多くの方々に支えられ4年間の任期を全うすることができましたこと、心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

退任にあたり、機会をいただきましたので、少し私見を述べたいと思います。

教育とはすなわち「減らないお弁当」である。笑われるかもしれませんが、ずっとそう考えています。砂漠かもしれない、豊穡の大地かもしれない。いつか大切な子どもたちをそんな社会へ送り出す時が来る。長い未来を独立した大人として生き抜いていく彼ら彼女らに、持たせてあげられるものは何でしょう。それは継続的な大人の庇護ではありません。社会的、経済的な援助は将来にほとんど役立たず、精神的な支えでさえも生涯を先んじた私たち大人が保障し続けることができません。それでも未来へ向けて旅立つ子どもたちに持たせてあげられるものがあるとすれば、それが唯一「教育」です。生涯にわたり失われることのない、生きていくための「減らないお弁当」。それが教育であり、伊勢市の教育行政における「生きる力」なのだと考えています。

「生きる力」が何であるかを考えると、それは非常に多岐にわたります。基礎的な学力、健康な体、健全な心、歴史・文化への知見、集団における社会性、金銭感覚、社会的な倫理観、人としての道徳観、多様性への理解と数えきれないほどです。これだけのことを非常に短い時間で彼らに持たせてあげる必要があります。一つ一つを分解し、何かに特化して、「これができれば大丈夫」と言

えるものではなくて、関連し合う全てを多少はあるにせよバランスよく獲得していくべきものです。なぜなら、ある一つの力だけでは、自ら道を拓いていこうとしても往々にして行き詰まり、その困難を乗り越えるには不十分であるから、そしてまた、自らの道が確定した一本ではなくて、実は多くの道が選択肢として現れて、その時々を選んでいくべきものだからです。その時に必ず必要となるのは「生きる力」、子どもの頃に学び、教えられ、経験し、獲得してきた事柄全てなのだと思います。容易ならざるミッションですが、彼女らが旅立つ時にどうしても持たせてあげたいのです。

このことは地域や保護者と一緒になって担うべきものです。それでもやはり学校や教育行政の役割は非常に大きなものであるし、その期待も大きなものであることは疑いありません。また時代背景はその時々が変わり、必要な「生きる力」も移り変わるかもしれない。そうであっても常に、子どもたちが力強く生きていけるように、幸せな未来を築いていけるように、「生きる力」の教育をこれからも進めていっていただきたいと思います。私が教育委員として見てきた4年間でそうであったように、これからも子ども達一人一人の未来を創る業務を進めていっていただきたいと心から思っています。

ある朝、子どもが遠足に出かけます。元気に「行ってきます。」と走り出す背中にリュックを背負っています。リュックの中には色とりどりのお弁当。ドアの向こうはついていけない彼らの世界。いつだって生きていける糧を持たせてあげたいと願います。前に進む子ども達に、私たちはどれだけのことをしてあげられるでしょうか。

「スクールイノベーション総合推進事業」…2年目の成果

今年度の「スクールイノベーション総合推進事業」の新規授業研究を明倫小学校と上野小学校の2校に委託しました。学校規模の異なる2校において、ICT機器、特にタブレットPCの有効活用について研究が進んでいます。

次期学習指導要領の重要事項である「主体的・対話的で深い学び」の実現や「情報活用能力」の育成につながる研究の一環として、学校の独自性を発揮したタブレットPCや電子黒板を活用した授業が公開され、授業後は活発な研究協議が行われました。

※有緝小学校・早修小学校の2校においても継続研究中です。

【明倫小学校編】11月22日(木)

タブレットPC活用授業4教科で公開!

テーマ

「人権感覚あふれる魅力ある学校づくりとICT機器の活用」の実践

【研究の概要】

明倫小学校では、昨年度から「人権感覚あふれる魅力ある学校づくり」を進めています。今年度はさらに「スクールイノベーション総合推進事業」の研究委託校として、ICT機器を積極的に活用した授業実践についても研究をリンクさせています。研究を支える柱として設定したのは下記の3つです。

- ①「わかる授業づくり」
- ②「心の絆づくり」
- ③「生き方の学び場づくり」

①「わかる授業づくり」

学調やみえスタディ・チェックの結果から見てきた「基礎学力の定着に関する課題」を解決する一つの方法として、「学力保障の観点」からICT機器の活用を積極的に取り入れてみようという動きです。

＜実践事例…無理のないところから＞

●国語科

電子黒板活用…デジタル教科書を拡大提示して注目させたい文章を共有

書画カメラ…ノートを写して意見の共有

●算数科

電子黒板活用…コンパスや分度器の使い方をデジタル教科書で提示

書画カメラ…ノートを写して自分の考えた方法を説明する場を多く設定

●家庭科の裁縫・調理実習でも書画カメラを活用して手元を拡大提示

②「心の絆づくり」

子どもたち同士のつながりや居場所づくりを大切にしながら、学習の場面でそれぞれの子どもたちが輝けるよう「仲間づくりの観点」からICT機器の活用を進めています。発表に苦手意識をもつ子どももよい表情で活動に参加ができています。

＜実践事例＞

●児童集会での委員会活動

スライドショー

(世界環境デーの取組で活用)

●音楽科の鑑賞曲の感想交流

タブレットPCに書き込み→電子黒板で共有



③「生き方の学び場づくり」

生活科や総合的な学習の時間等でゲストティーチャーの招へいや見学・体験活動を積極的に実践しています。子どもたちが学んだことや気付いたことを発信するためにICT機器を有効活用することで情報活用能力を身に付けることができるように取組を進めています。

＜実践事例＞

●2年生の町探検…商店街の写真撮影

インタビュー動画撮影編集

●6年生の修学旅行事前学習…インターネット

まとめ発信…書画カメラ・電子黒板

＜助言者＞

算数科……杉野 裕子 皇學館大学教授

学級活動…中條 敦仁 皇學館大学准教授

理科……中松 豊 皇學館大学教授

体育科……加藤 純一 皇學館大学教授



★研究内容の詳細や助言者の方々のご講評内容等については、年度末発行の別冊子をご高覧願います。

第1学年 算数科 大仲 麻喜教諭

【単元名】 ひきざん

【教材名】 「12-3の計算の仕方を考えよう」

【本時の指導内容】

- ①電子黒板に問題文を映し出して課題をとらえさせ、分かっていることと求めることを確認し、13-9や12-7とどこが違うのかを発表させる。
- ②1人に1台タブレットPCを配付し、画面上にケーキの絵を提示し、どこから3個食べるかを考えさせる。自分で選んだ3個に印をつけさせ、どの3個を選んだのかを共有する。
- ③タブレットPC上の図が描かれたワークシートに「12-3」の計算の仕方について自分の考えを記入し、自分の考えた方法をペアの友だちに説明させる。
- ④ペア活動後に電子黒板上に映し出したタブレットPCの画面をもとに全体発表させる。



<算数科でタブレットPCを活用するねらい>

■本時では、タブレットPC上に自分の考えを記入し、それを使って全体で交流するという活動を行った。それにより、視覚的にも分かりやすく、算数に対して苦手意識をもつ児童が意欲的に考えを書き込もうとする姿が見られた。ワークシートに書き込めた児童から、順番に電子黒板上に送信させたことから、発表前に友だちの考えが見えて、色々な考えが出なかったように感じるところもある。いかに効果的に使うかが重要である。

第5学年 理科 沼田 崇教諭

【単元名】 花から実へ

【本時の指導内容】

- ①前時に各班が撮った花粉の画像をペアに1台のタブレットPCに送る。
- ②画像を見て花粉の形に注目して様子を比べ、気付いたことをホワイトボード(小)に書かせる。
- ③ペアで気付いたことを班でまとめ、ホワイトボード(大)に書かせる。
- ④班でまとめたことを発表させる。
- ⑤画像を見ながら、花粉の形(ギザギザ・丸い)には「なぜちがいがいいのか」を植物の様子や日常体験をもとに考えさせる。



<理科でタブレットPCを活用するねらい>

■理科の学習でのICT機器の活用の目的を「①学習に対する興味や関心を高める。」「②一人一人に課題を明確につかませる。」「③分かりやすく説明し、思考や理解を深めて技能を習得させる。」「④知識の定着を図る。」という4つに分けて考え、どのような活用が効果的なのかを見極めながら取り組んだ。

第4学年 学級活動 石井 真木教諭

【単元名】 正しく発音してるかな？

～発音練習を通して「ことばの教室」を知ろう～

【本時の指導内容】

- ①「ことばの教室」で指導することの多い「ス」と「カ」の構音指導を体験させる。
- ②正しい「ス」を発音するための息の出し方を理解するために、ストローを使って舌の正中(真ん中)から出る息を意識させる。
- ③正しい「カ」を発音するときの舌の動きを理解させるために、水を少し口に含んで、うがいのときの舌を意識させる。



<ことばの授業でタブレットPCを活用するねらい>

■「ことばの教室」では、タブレットPCで自分の口や舌の形を写し、自分が言葉を発しているときの形を見られるようにしている。タブレットPCに録画した自分の口や舌の動作を見ることでどこが悪かったか、どのように動かすのが正しい動かし方であるのかを客観的に考えることで理解を深めることができている。本時では、4年生の児童にタブレットPCで正しい発音の口や舌の動画の例を見せて、自分たちが何気なく話している言葉の音の正しい舌や口の形を客観視させることに活用した。

第6学年 体育科 森田 剛史教諭

【単元名】 つながれーボール～動く・つなぐ・考える～

【教材名】 「ソフトバレーボール」

【本時の指導内容】

- ①第6時で気付いた視点として「空きスペース」や「ボールを持っていないときの動き」を意識しながら練習に取り組ませる。
- ②基礎練習として円陣パス、ぐるぐるスパイク、スパイク練習に取り組ませる。
- ③試合形式の練習時間、話し合いの時間をしっかりと確保し、試合形式の練習をしては話し合い、更に試合形式の練習に取り組み、チームのレベルを高めていく時間とする。

<体育科でタブレットPCを活用するねらい>

■1 つ目は個人の動きや全体の動きを撮影することで、普段は見られない自分の動きを確認することである。児童それぞれが観点を持ち、スロー再生や一時停止を活用することで技能の習熟を図る。動画を友だちと見ながら話し合うことで動きのイメージをもつことが期待できる。

■2 つ目は撮影した動画を見ることで児童の話し合いを活性化させ、チームとしてのつながりを強化していくことである。普段は友だちにアドバイスしづらい児童も、動画があれば話しやすくなる。アドバイスを聞くこともしやすくなると考えられる。本時でも使う場面を見極めた。



【研究の概要】

全校児童 64 名の上野小学校では、小規模校ならではの特性を生かして、1人1台PCを活用した実践研究を進めています。いつでもすぐにタブレット PC が使える学習環境を整え、授業で活用することに加え、家庭への持ち帰り学習(ドリル学習)にも取り組んでいます。

「子どもたちの活動から生まれる思いや気付き、問題解決における考えや発想を自分の言葉で表現したり書き表したりして、友だちと交流し、話し合いによって解決の手立てを考えさせること」を大切にしながら、全職員で研究を進めています。

その実現のために、ICT 機器を積極的に活用して、教科学習や様々な活動の中で「話す」「聴く」「綴る」「つなぐ」ことを実践しています。

【タブレット PC 活用の具体例】

■1年生 算数科「たしざん」

・単元のまとめとしてドリル学習に取り組んだ。プリントなどの課題が早くできた児童は既習の単元を自分で選んで復習している。「ひょうじゅん」→「きほん」(または「ちょうせん」と自由に進めている。

⇒初めてのときは、画面の問題を読んで理解するのに時間がかかっていたが、パターンに慣れるとスピードが付き、楽しんで取り組めるようになった。算数の学習が苦手な子どももよい顔で取り組み、自己肯定感につながる事が期待できる。

■特別支援学級 えがお 国語科「ことばあそび」

・e ライブラリの国語を活用して、言葉を読む学習を行った。絵をヒントに、バラバラになっている文字を正しく並べて単語を完成させたり、「ひらがなしりとり(基本)」を行ったりした。

⇒タブレット PC の使い方を覚えるのは早く、説明を受けた次からは自分で進めることができた。問題に正解することで自信をもち、次の問いにも積極的に取り組むことができた。

<助言者>

中條 敦仁 皇學館大学准教授

昨年度から「スクールイノベーション総合推進事業」の推進に大きく関わっていただいております。今年度は明倫小学校と上野小学校の授業研究について、皇學館大学の杉野教授、中松教授、加藤教授に助言教科の輪を広げていただきました。



■2年生 体育科 「跳び箱を使った運動遊び」

- ・3つの跳び方をグループに分かれて練習させるときに、技のポイントを明確にしたり、友だち同士の関わりをもたせたりするために、タブレット PC の動画機能を活用した。
- ・ペアになり、お互いに跳んでいるところを撮り合い、撮った動画を見ながらどかが良くてどかが悪いかをグループで話し合い、次の練習に生かした。

⇒振り返りの中で、見守りたい子が「前はうまく跳べなかったけど、跳ぶことができた。」と発表することができた。



■2年生 学級活動「はみがき指導」

- ・ココアクッキーを食べた後の口の中の状態を観察し、タブレット PC のデジタルノート機能を使って、ワークシートに色を塗り、歯の形に合ったみがき方や自分の口の中の汚れが付きやすい部分のみがき方を学習した。

⇒タブレット PC を使って色を塗ることで書き直しが容易にでき、楽しんで学習した。

■6年生 総合的な学習の時間

「沼木まつりで自分たちの思いを発表しよう」

- ・人権について考える学習の積み重ねとして、ゲストティーチャーの話聴いたり家族と話したりする中で、自分が気付き、感じたことを地域の祭りである「沼木まつり」で発表した。

⇒自分の考えをまとめて話すことが苦手な子が、自分のタブレット PC で撮ってきた大好きな沼木の写真をもとに自分の人権に対する思いを発表した。

【電子黒板活用の具体例】

■4年生 図画工作科「『鑑賞』の魅力」

- ・「美術館ってどんなところ?」「名画を残した画家ゴッホの絵画」「ゴッホの絵はどれ?」「いろいろな画家たちの本を紹介」「ゴッホの絵に色をのせ、色を選ぶ楽しさを学ぶ」という授業の流れで学習した。

⇒画面を共有して一つ一つの絵をみんなで鑑賞し、自分の見方や感じ方を言葉に表し、友だちの見方や感じ方を知ることで鑑賞の楽しさを味わった。

■公開授業研究会 第3学年の取組■
ICT 機器活用場面のクローズアップ！

第3学年 総合的な学習の時間 中村 優基教諭

【単元名】「大すき わたしたちのまち むま木」

【本時の指導内容】

- ①子どもたちが体験してきた行事についての感想と、インタビューで聞いた保護者の行事に対する思いや沼木に対する思いを交流する。
- ②まちづくり協議会の人たちがどのような思いで様々な行事を計画してくれるのかを考えさせ、最後にまちづくり協議会の人々の思いを標語で表現させる。
- ③まちづくり協議会の人、一人一人がもつ「沼木のこともっと好きになってほしい。」という強い思いに気付かせ、子どもたちが沼木のことをもっと好きになり、自信をもって沼木の町のことを発信できる授業にする。

【ICT機器の活用について】

総合的な学習の時間をはじめ、他の時間にも積極的にタブレットPCを使ってきた。

<算数科> ノート機能を使い、問題を配付し、自分の考えを記入させ、電子黒板で確認しながら、全員と考えを共有した。

<社会科> 写真機能を使い、撮影しながら校区探検をし、地図を作った。

<家庭学習>

タブレットPCを持ち帰り、ドリル学習を行ってきた。朝学やテスト前の復習の時間など、10分程度の少ない時間でも効果的に活用してきた。

<総合的な学習の時間で

タブレットPCを活用するねらい>

- 本時では、まちづくり協議会の人々の思いを考えるにあたり、インタビューしてきた内容がノートに書いてあるものを読み合い交流するよりも、タブレットPCを使って動画を撮り、まちづくり協議会の人たちの顔の表情や話し方を見ることができる視覚的支援をしていくことで、思いにより迫ることができると考えた。



- 自分の思いや考えを文章で表現することを苦手とする児童には、「□沼木！！ みんなでいっしょにもりあげよう！！」の標語の□に学習のふり返りとして、自分の考えるキーワードをタブレットPCに書き込む活動を行った。

- タブレットPCを使うことは、授業の中で大きな助けとなってきた。特に、「①自分の思いや考えを文章で表現するとき」、「②視覚的支援の場面」である。発信したいことを積極的に表現する子どもたちの姿があった。

タブレットPCの家庭学習への活用

上野小学校では10月初旬から第3学年以上の児童が、1月からは全校児童がタブレットPCの持ち帰り学習に取り組んでいます。

11月中旬に行った児童対象のアンケートでは、次のような結果が得られました。

- ①タブレットPCを使ってする宿題は楽しいですか。

楽しい	まずまず楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
86%	14%	0%	0%

- ②タブレットPCを使ってする宿題は好きですか。

好き	まずまず好き	あまり好きではない	好きではない
89%	11%	0%	0%

- ③タブレットPCを使ってする宿題はわかりやすいですか。

わかる	まずまずわかる	あまりわからない	わからない
74%	26%	0%	0%

<子どもたちの声>

- 「基本」「標準」「挑戦」の3つのレベルがあり、難しかったり簡単だったりする問題がありおもしろい。
- 間違えた問題をリトライできて、その問題が解けるまでリトライできるから、合っているともっとやりたいという気持ちになる。
- 合っていたら、その場で丸をつけてくれるので、どんどん進めるから楽しいし好きです。意味がわからなかったら、ヒントや解説があるし、問題の横に絵や写真があるからわかりやすい。



同時期に行った保護者対象のアンケートでは、次のような結果が得られました。

- タブレットPCが一人1台となり、タブレットPCを授業でも活用することが増えました。このことについてどう思いますか。

活用を進めるほうがよい	どちらかという と活用を進める ほうがよい	どちらかという と活用を進めな いほうがよい	活用を進めない ほうがよい
61%	39%	0%	0%

<保護者の声>

- 授業が楽しくやる気も出ているのでどんどん活用してほしい。
- これからの時代、新しいことに慣れていってほしい。将来の役に立つと思う。
- すべてがタブレットPCになってしまうのは、書く力等の低下になってしまう心配があるが、これからの社会につながっていくので良いことである。



これからの伊勢市の ICT 教育は

Society 5.0 (ソサイエティ 5.0) で実現しようとしているのは、『IoT』で人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有される新しい社会です。伊勢市では子どもたちが、その社会の訪れを実感できる教育環境をスピード感をもって整えようとしています。

それを実現するためには ICT 機器の必要台数を適切かつ計画的に整備することが欠かせません。私たち大人には、「未来を創る担い手である子どもたち」が、使いたいときに ICT 機器を活用でき、「学習の基盤となる資質や能力」としての「情報活用能力」を身に付ける教育を進める責任があります。

今後さらに計画的に ICT 教育環境を充実させること、教員が学び合うことが新しい教育を進めるうえで重要であるととらえています。

今年度の 11 月末には全小学校に 1 学級分ずつのタブレット PC の導入を完了しました。来年度はさらに小学校への導入台数を増やすことに加えて全中学校へのタブレット PC の導入を目指しています。

ICT 機器を活用した授業づくりについては、引き続き「スクールイノベーション推進事業」の研究委託校での実践を核として、「授業でのより有効な活用方法の検証」を行うとともに、タブレット PC を活用した「持ち帰り学習の実証研究」等、新たな取組を推進してまいります。



Society 5.0 (ソサイエティ 5.0) とは？

「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)」【内閣府 HP】

狩猟社会(Society1.0) ⇒ 農耕社会(Society2.0)
⇒ 工業社会(Society3.0) ⇒ 情報社会(Society4.0)

伊勢市教育研究所 移転の歴史

伊勢市教育研究所は市役所本庁の改修工事に伴い、平成 28 年 8 月に小俣総合支所から旧さくらぎ保育所に仮移転しておりましたが、平成 31 年 2 月 12 日に、再び小俣総合支所に戻って業務を開始しました。

歴史をたどると、伊勢市教育研究所は、これまでに 6 度の移転を経験しています。

- 昭和 43 年 4 月 厚生中学校内へ
- 昭和 50 年 4 月 八日市場町 9-30 へ
(旧田岡産婦人科内)
- 平成 6 年 3 月 八日市場町 17-30 へ
(旧戦災復興記念会館内)
- 平成 19 年 4 月 小俣総合支所 3 階へ
- 平成 28 年 8 月 旧さくらぎ保育所へ
- 平成 31 年 2 月 小俣総合支所 3 階へ

平成 17 年 11 月の旧伊勢市と旧二見町・小俣町・御薊村の 4 市町村の合併により新伊勢市が誕生し、新たな伊勢市教育研究所がスタートしましたが、その歴史は 50 年を越えています。これまでの間に機構改革と新規事業の推進により、現在は 4 部門【教育研究研修係・情報教育係・教育支援センター NEST・スマイルいせ】で成り立っています。



旧さくらぎ保育所



小俣総合支所

伊勢市教育研究所の果たす役割は、伊勢市の子どもたちの豊かな成長を支えることと将来につながる「生き抜く力」をつけることにほかなりません。そのために教員の皆さんの「学ぶ力」を支援することに「まごころ」を込めさせていただいております。

◆◆ 編集後記 ◆◆

松田前教育委員に寄稿いただき、しょうほう 24 号が完成いたしました。伊勢市の子どもたちに「生きていける糧を持たせてあげたい」という言葉に胸を打たれました。子どもたちに持たせたい「減らないお弁当」の中身は一人一人異なりますが、私たち大人には「いつでもどの子にも温かいお弁当が届けられる」取組を進めていく役割があると考えます。

今年度、伊勢市教育研究所が進めてきた不登校児童生徒の支援や教育相談、センターサーバー化の完了や小学校におけるタブレット PC の全校配置等もそのなかで行った取組の一端です。

次号では、「教員の学び」について発信させていただきます。(は)